

<今回>270回目 2019年11月25日(月)15時~18時 1503号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p113 第2章 倭の5王 より

<前回>269回目(19-11-11) 出席者 8名

資料(19-11-11-1)前回のまとめ(清水)

ー2)遠州遺跡旅報告(清水)

A 報告 八王子セミナーも盛會に終わり、来年度の予定も打ち合わせて来られた。今年は関西の古賀氏と大下氏が持論を展開されたという。木村賢二氏の「戦後最大の古代史学者としての古田氏紹介」の講演資料を大下氏経由で頂いた。セミナーでは単に持論を発表するだけでなく、通説や一元史観に立った学会や文部省に、多元史観や史料の正しい解釈を広める活動をしてほしい。荻上理事長や古田光河氏が意見を述べられた。

B 資料 ー2)遠州遺跡旅の報告をした。5人+現地案内人川江氏と6人大型レンタカーで1泊2日の充実した楽しい旅行であった。川江氏は前年まで学芸員として公務員勤務をされていた方である。自ら運転して遠い遺跡をつぶさに案内説明してくれた。榛葉氏の高校時代の親友とのこと。①伊場木簡(測評699年)出土地(JR浜松工場内)②蜷塚貝塚遺跡(浜松市立博物館)③本州最古の人骨遺蹟浜北原人出土地、④細江銅鐸資料館⑤赤門上古墳、など多数の古墳に案内された。最後は磐田の遠江国分寺遺跡。

懇親会6名 津多屋10909円(1800・4+1500・2)ー709円

C 読書 p106 正始元年鏡もあやしい より

1)いわゆる正始元年鏡は2つある。①兵庫県豊岡市森尾古墳、②群馬県群馬郡南村柴崎古墳(同じ鑄型から作られたという)。〇始元年は19個ある。そのうち小林は正始(魏240~249)泰始(晋265~274)に絞り、富岡理論に従って三角縁神獸鏡を魏の鏡として正始と決めた。

2)富岡理論は景初3年鏡は「初」の文字が判明しない上に、魏でも後魏の異体文字判別用の羅振玉の拓本の文字を誤って3世紀の魏と誤読したもので、中国鏡とは考えられない。

3)昭和47年8月25日朝日新聞朝刊に島根県大原郡加茂町神原神社古墳から景初3年鏡が出土したと報道があったが、「初」の文字が判読しがたい。黄金塚の第2文字(初といわれる文字)とも字形が異なっている。4つの紀年鏡のいずれも1字欠いていたり、腐食したりして2字全体を認識できるものはない。

<2種のトの音>

4)橋本進吉博士は日本上古音の音韻について、古事記、日本書紀、万葉集の日本文献から母音は甲、乙の2種類ある。漢字(万葉仮名)を書き分けている。

5)「と」音について清音、濁音ごとに分類している。「臺の」文字は乙類清音に分類された。台の文字はない。日本書紀には「興台産靈」に「許語等武須毗」と訓じている。台は等で「ト」と音する。本来臺と台は別字であるが台の本字として臺を使ったのが橋本で、これに漢字学者、国語学者が異論を述べなかつた。浜田敦によると、畿内大和は乙類清音で夜麻登、夜麻苔、也麻等。筑後山門のヤマトは甲類のトだから近畿大和説に合致とした。

6)古田説はそもそも邪馬壹国だから臺ではない。臺としてもこの文字はトとは読めない。橋本の頭は当時一元説で台は臺の略字として台の本字として臺にもどして扱ったものと推定される。

次回日程 19-12-9(月) 15時から18時 602会議室

ー12-23(月) 15時から18時 603会議室